２月　月例集会

はや、今年度も残り一か月あまりとなりました。また、三年生にとっては中学校生活も二週間程となりました。残り少なくなった令和元年度、それぞれの学年に応じた準備をしっかりと行って欲しいと思います。

さて、三学期始業式で、東京オリンピックが開催されることに触れましたが、卓球個人で出場を決めている張本智和選手、伊藤美誠選手は、それぞれ現在十六歳と十九歳です。

今日は、二年前にさかのぼり、二人の活躍に触れたいと思います。

二年前の一月二十一日に開催された卓球の全日本選手権大会で、中学生であった張本智和選手が、女子では十七歳であった伊藤美誠選手が、ともに初優勝を遂げました。このとき、伊藤選手はダブルスと混合を合わせて史上四人目の三冠を達成しました。

二人は、憧れ、そして、目標とした選手に勝利しての優勝でした。張本選手と対戦した前回のリオ・オリンピック銅メダリスト、また、全日本選手権最多十回目の優勝を目指した水谷選手は、試合後、「張本選手は中国人選手と同じレベルにあり、誰がやっても勝てない」とインタビューに応えました。

張本選手は、不得意なフォアーハンドを練習で克服し、自分の武器としたそうです。それも短期間で。苦しい練習を乗り越えた先に勝機を見い出すことができると、彼は自分を信じ、練習に取組んだ姿が見えてきます。

弱点、弱みを強みに変えた張本選手。相手選手も対戦し、とても驚いたことでしょう。

さらにインタビューでは、「相手の方が経験値が上であるけれど、自分がもっともっと思い切って攻めた。自分には失うものがないので思い切りいった」と話していました。また、試合の流れの中で、水谷選手が追い上げてきた時の心境を問われ、「メンタルの面で自分に負けなかった」と話していました。それは、練習に裏付けられた確信、自信を感じさせる言葉でした。

憧れ、目標とした選手を「自らを信じて努力すること」で乗り超えた二人の姿は、勿論、卓球の世界だけのことではありません。　また、この先、張本選手や伊藤選手が水谷選手や石川選手を目標とし乗り越えたように、二人を超える選手が必ず現れる、このことこそが、二人だけが特別な存在ではない証です。

皆さんは、次への準備として、目標を持ち今日の日を頑張っていると思います。「自分が一番分かっている自分の弱さ」、これは人から言われると「分かっている」と時には腹立たしく思ってしまうものですが、そこを動かすこと、弱さの中に自分の可能性を見出し、その限界に挑むことが大きな一歩となります。誰しもが、張本選手と同じく秘めた力を持っています。百回挑戦し、百回失敗しても、百一回目に挑戦する。「為せば成る」、弱点に向かい合い、自分の強みに変える努力、行動をみなさんに期待する姿とし、二月・月例集会の言葉とします。